

## 板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査の集計結果について

板橋区コミュニティ・スクール（iCS）について、各学校や委員会の現状を把握し、より学校や地域の現状に則した仕組みにするため、学校及びコミュニティ・スクール（CS）委員、地域コーディネーターを対象に、12月から2月下旬にかけてアンケート調査を毎年実施している。

この度、集計結果がまとまったので報告する。

### 記

#### 1 板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査まとめ

- ・学校回答用
- ・コミュニティ・スクール委員回答用
- ・地域コーディネーター回答用

#### 2 今後について

本集計結果については、板橋区公式ホームページに掲載済みであり、4月16日（水）全体校長会において校長に周知し、各CS委員会でフィードバックしてもらう。

（ホームページ URL

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyoikuiinkai/chiiki/community/1028732.html>）

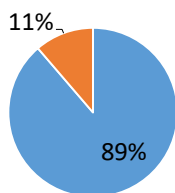
# 板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《学校回答用》 まとめ

令和6年度

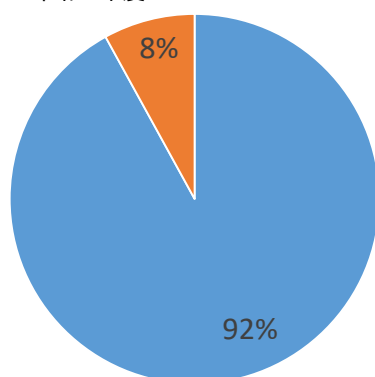
1

## Q1 会議の開催数(年5回)は適当だと思いますか。

令和5年度



令和6年度



■ 適当 ■ 適当でない

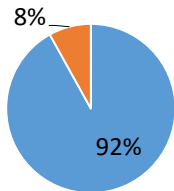
会議の開催数が適当だと回答した学校は約92%であった。

適当でないとする回答の中には、6回以上開催する必要があるとの意見もみられた。

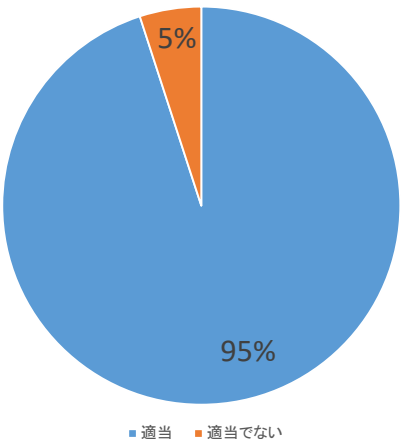
2

Q2 委員の人数(地域委員10人以内)は適当だと思いますか。

令和5年度



令和6年度



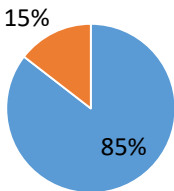
委員の人数は適当であると回答した学校は約95%であった。

適当でないとする回答の中には、10人以上とする必要があるとの意見もみられた。

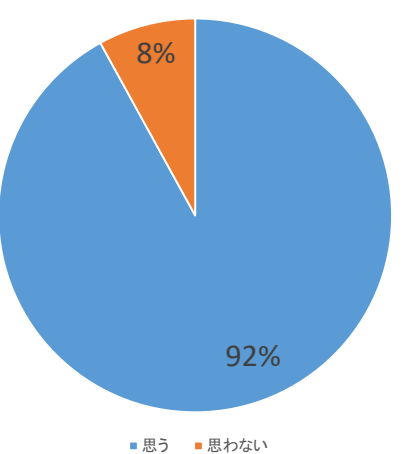
3

Q3 熟議のテーマ設定は適切であったと思いますか。

令和5年度



令和6年度



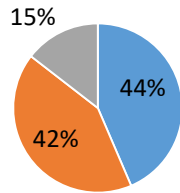
約92%の学校が熟議のテーマ設定が適切であったと回答した。

思わないと回答した中には、熟議のテーマについて、委員から意見が出ることはなく、学校で考えているため、大変さを感じる学校もあった。

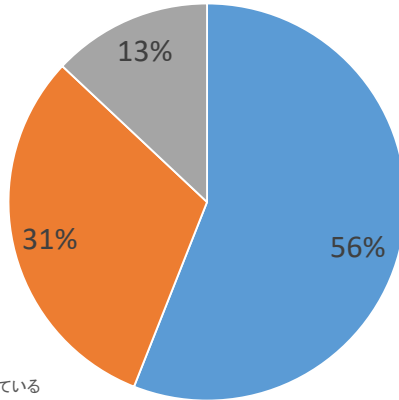
4

Q4 熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていますか。

令和5年度



令和6年度



■ 毎回している  
■ 1回はしている  
■ していない

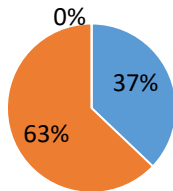
約87%の学校で、熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていると回答した。

昨年度と比較し、「毎回している」の割合が増加した。

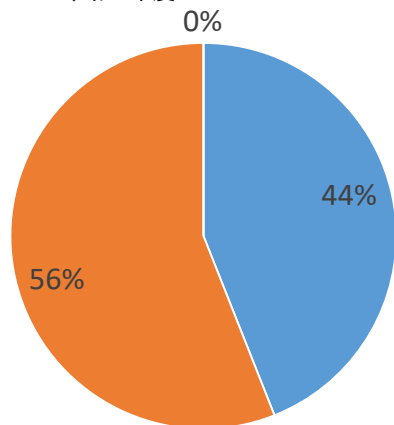
5

Q5 学校の課題や悩みについて、委員と共有できていると思いますか。

令和5年度



令和6年度



■ できている   ■ 一部共有できている   ■ できていない

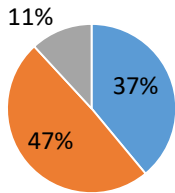
昨年度と同じく、全ての学校において、委員と課題や悩みを共有できていると回答した。

また、できていると答えた学校の割合が昨年度よりも約7%増えた。

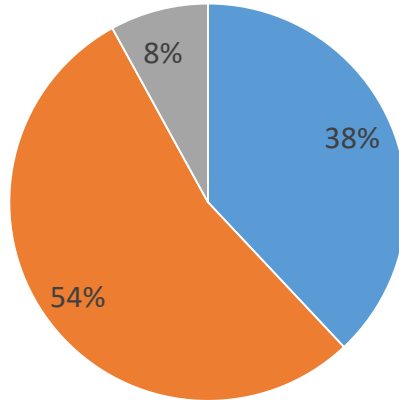
6

**Q5-2（すべて共有できている・一部共有できていると回答した学校）**  
学校の課題や悩みに対して、委員から解決策等が出てきますか。

令和5年度



令和6年度



■ 具体的解決策まで出る  
■ あまり意見は出てこない

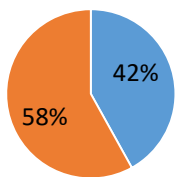
■ 意見は出るが解決までには至らない

問5で課題や悩みを共有できていると答えた学校のうち、具体的解決策まで出る学校が約38%と昨年度とほとんど変わらない結果だった。委員から意見が出る学校の割合は約8%増加した。

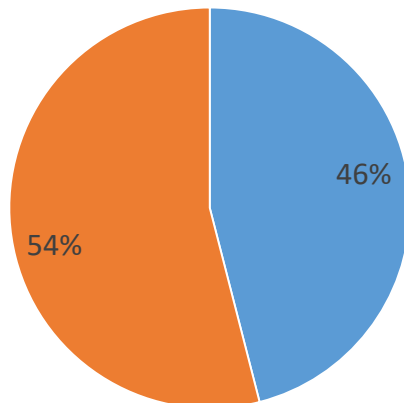
7

**Q6 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。**

令和5年度



令和6年度



■ ある ■ ない

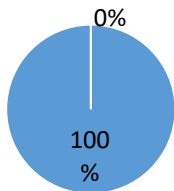
C S 委員会の重要な機能の1つである基本的な方針の承認について、委員から意見があったとする学校は約46%で、昨年度より約4%増加した。

学校経営方針の説明の際には、なるべく専門用語を用いず、平易な言葉で説明する等、委員が理解でき意見が言いやすい環境を整えることが求められる。

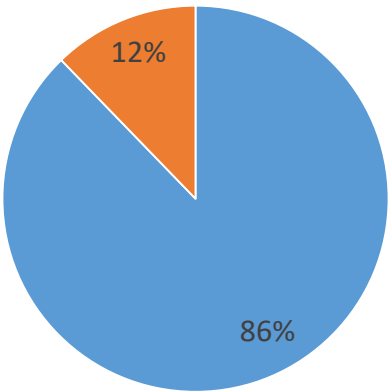
8

Q6-2 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。  
(あると回答した学校) 出された意見を当該方針に反映させましたか。

令和5年度



令和6年度



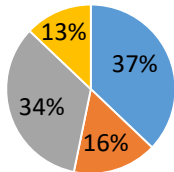
■ 反映させた ■ 反映できなかった

意見を反映させた学校は、約88%で、昨年度に比べて減少したが、委員からの意見が増えているため、全ての意見を反映できなかったり、反映しづらい意見があったりした影響と推測される。

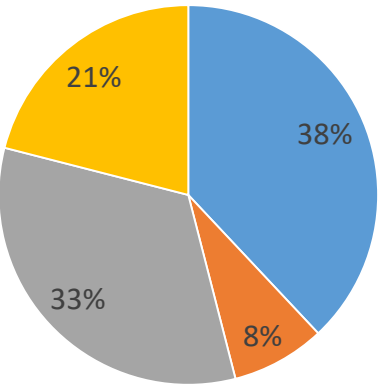
9

Q7 熟議を実施する際、積極的な発言や意見をまとめるなど、実質的に熟議の進行を担っている方を選択してください。

令和5年度



令和6年度

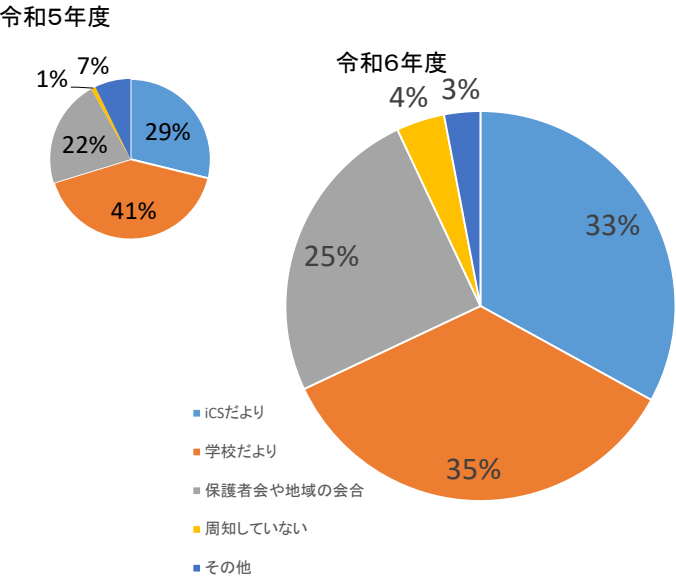


■ 委員長 ■ 校長 ■ 副校長 ■ その他 (地域コーディネーターなど)

熟議の進行を校長、副校長以外が担う学校が約9%増加した。学校がメインで進行する学校はまだあるが、委員長をはじめとする地域委員が進行を行う学校が増えてきている。

10

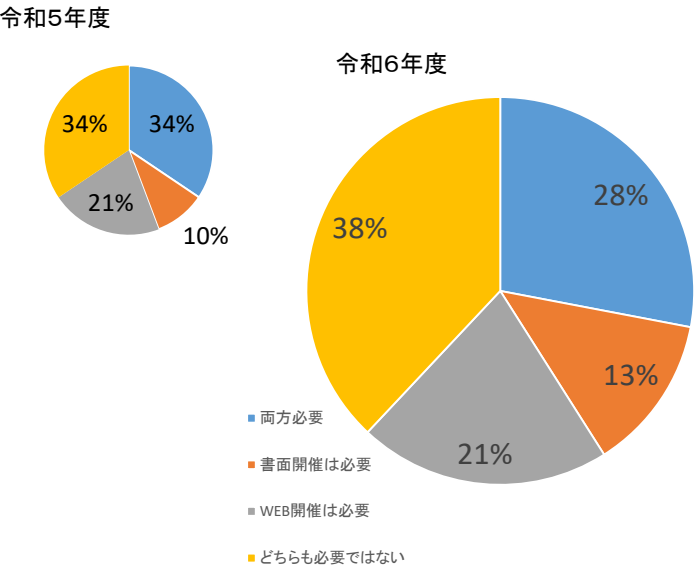
Q8 CS委員や地域コーディネーター、iCS活動についての紹介や周知方法に関して、当てはまる項目を全て選択してください。



iCSの活動の紹介や周知について、学校だよりで行っている学校が最も多かった。その他の回答として学校のホームページへの掲載や独自のリーフレットを作成している学校があった。

保護者や地域の方にiCSを浸透させるためにも、今後も継続して行うことが望まれる。

Q9 CS委員会の開催方法として、書面開催及びWEB開催は必要だと思いますか。

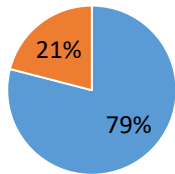


書面開催及びWEB開催が必要だと思う学校は、約62%であった。

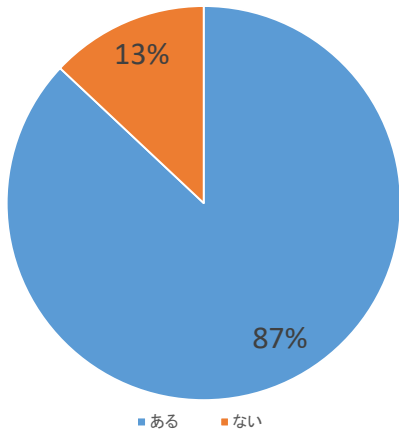
より深い熟議を行うためには、顔を合わせて会議を行うことも重要だという考えの学校も多くみられる。

**Q10 委員に会議以外(運動会等の行事・卒業式等の式典など)で委員として参加している、もしくは参加してもらいたい行事はありますか。**

令和5年度



令和6年度



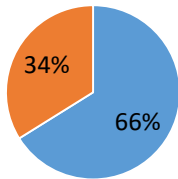
約87%の学校が、委員に参加してもらいたい行事があると回答した。特に、卒業式や入学式等の式典、運動会や音楽会等の行事が多くみられた。

合唱コンクールの審査員を委員の方をお願いしたいという意見もあった。

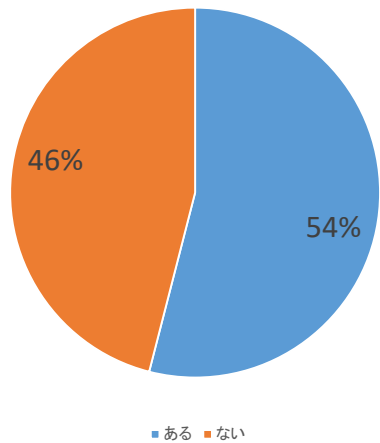
13

**Q11 委員の人選について、課題と感じていることはありますか。**

令和5年度



令和6年度



委員の人選に課題を感じている学校は約54%であった。

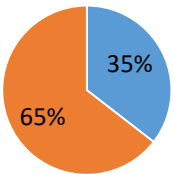
**【主な意見】**

- 委員の高齢化により、今日的な教育活動の理解にズレが生じる。
- 委員の変更、新しい人材の発掘が難しい。
- 学校と少し離れた立場である第三者の有識者の発掘。

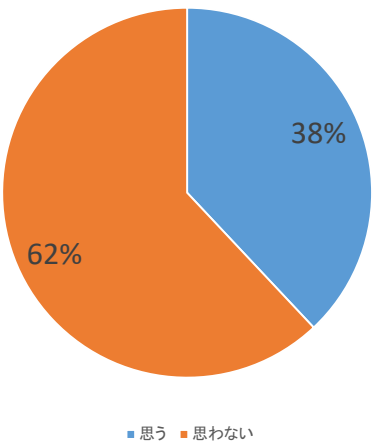
など  
14

Q12 委員の任期に更新限度を設定した方がいいと思いますか。

令和5年度



令和6年度

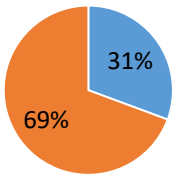


約38%の学校が、委員の任期に更新限度を設定した方がいいと回答した。  
3年～5年程度の回答が多く寄せられた。

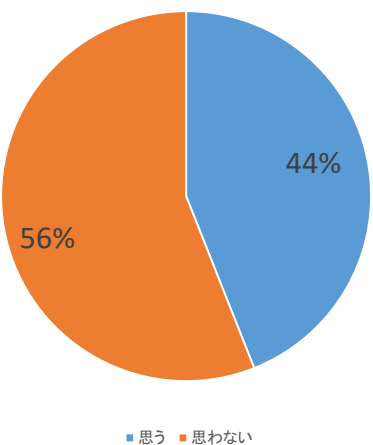
15

Q13 委員長の任期についても定めた方がいいと思いますか。

令和5年度



令和6年度

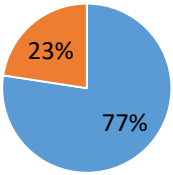


約44%の学校が、委員長の任期について定めた方がいいと回答した。  
3年程度との回答が最も多く寄せられた。

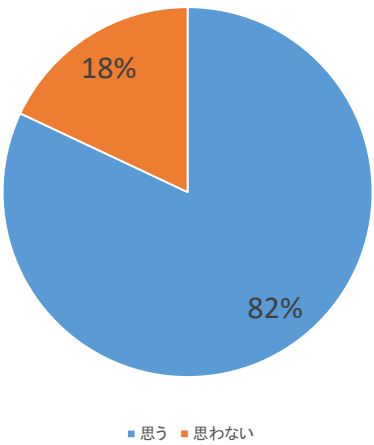
16

Q14 現在委嘱されている地域コーディネーターの人数は足りていると思いますか。

令和5年度



令和6年度

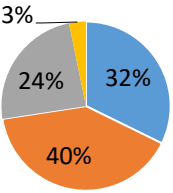


地域コーディネーターの人数が足りているとする学校は約82%であった。後継者不足等の課題を抱えている学校も多い。

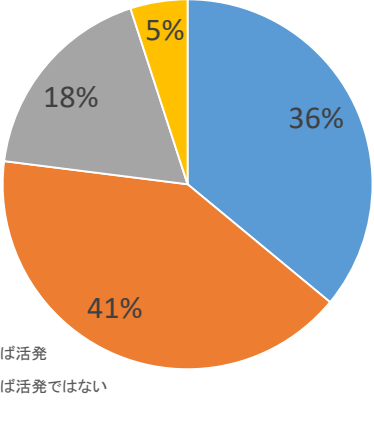
17

Q15 貴校の学校支援地域本部の活動は活発だと思いますか。

令和5年度



令和6年度

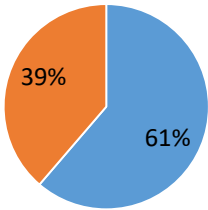


「とても活発」、「どちらかといえば活発」と回答した学校は、約77%であり、昨年度よりも約5%増加した。地域コーディネーターの活動時間も年々増加傾向にある。

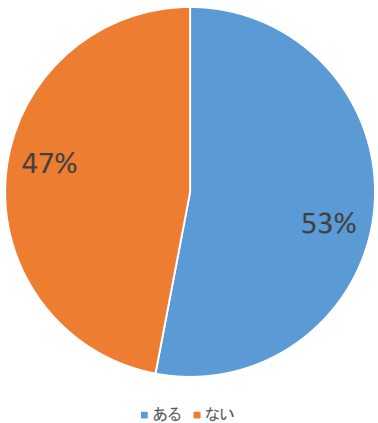
18

Q16 学校支援地域本部事業について、課題と感じていることはありますか。

令和5年度



令和6年度



学校支援地域本部事業について、課題があるとする学校は約53%であった。

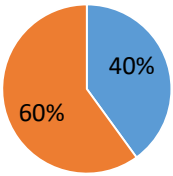
【主な意見】

- 受け身であり、主体的ではない印象を受ける
- コーディネーターの人材確保
- 平日の昼間の活動が難しく、依頼しづらい
- 活動のための予算が少ないなど

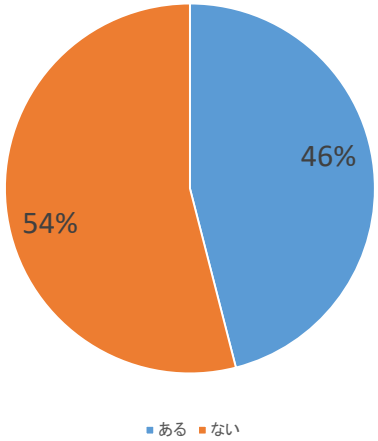
19

Q17 学校支援地域本部を通さず、直接ボランティアとつながって支援活動を行っている例はありますか。

令和5年度



令和6年度



直接ボランティアとつながっている学校は、約46%であった。

学校支援地域本部が実施される前からの繋がりが継続していると推測される。

【主な取組】

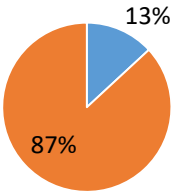
- 学習支援ボランティア
- 放課後学習教室ボランティア
- 校外学習見守りボランティア
- 別室見守りボランティア

など

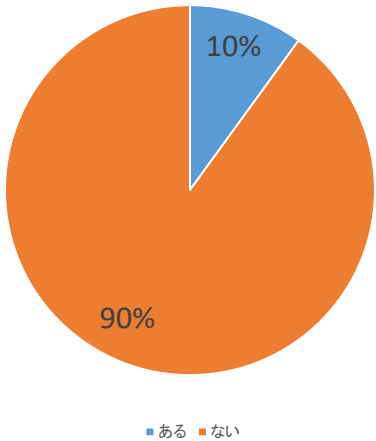
20

Q18 統括コーディネーターに相談したいことはありますか。

令和5年度



令和6年度



統括コーディネーターに相談したいとする学校は約10%であった。

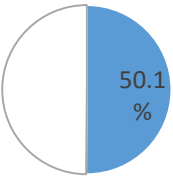
【主な相談内容】  
■地域主体のICS運営とするには  
■継続的なボランティアの募集方法  
■より良い支援体制についての実践例

など

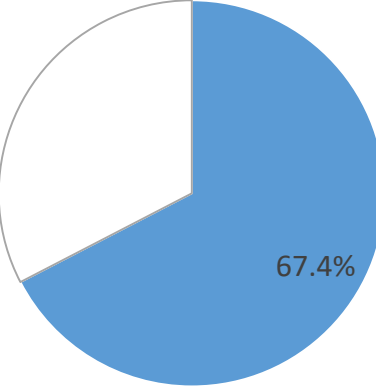
21

Q19 地域の力を活用することで、自身の業務量・負担が減ったと感じている教員はどのくらいいますか。

令和5年度



令和6年度



地域の力を活用することで業務量等が減ったと感じている教員は約67.4%であった。昨年度から、約17.3%ほど増加した。  
総合的な学習の時間や不登校支援で負担が減ったと回答した学校が多かった。

22

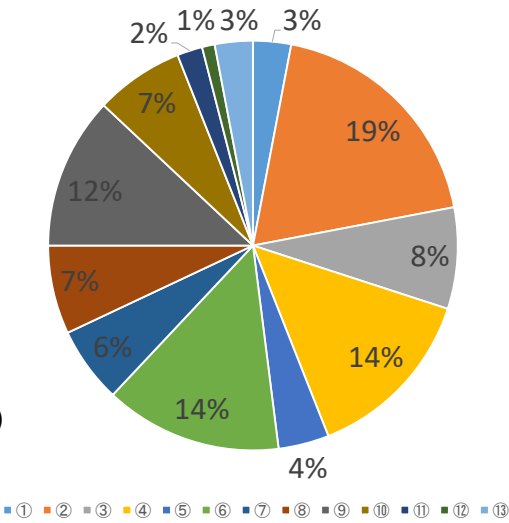
Q19-2 地域の力を活用することで、具体的にどのような点で負担が減ったと感じますか。

令和5年度

設問なし

令和6年度

- ①授業準備
- ②授業支援
- ③キャリア教育
- ④総合的な学習の時間
- ⑤特別活動
- ⑥児童・生徒の見守り
- ⑦不登校支援
- ⑧居場所づくり
- ⑨学校行事(周年行事)
- ⑩校内整備(美化・清掃)
- ⑪部活動補助
- ⑫保護者対応
- ⑬その他

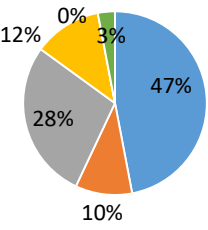


地域の力を活用することで負担が減ったと感じている具体的な業務について、②「授業支援」④「総合的な学習の時間」を挙げる学校が多くみられ、教員が質の高い授業づくりを考える時間の確保に貢献している。また、⑥「児童・生徒の見守り」を挙げる学校も多く、子どもたちの安心・安全につながっている。

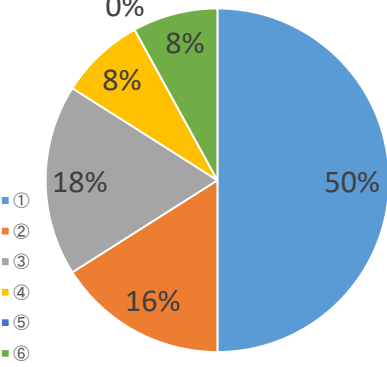
23

Q20 「地域とともにある学校」を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。

令和5年度



令和6年度



①を必要とする学校が約50%、②を必要とする学校が約16%であった。学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議について重視する学校の割合が増えた。

- ①地域との連携・協働が不可欠とする学校・教職員の意識
- ②学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
- ③地域の特色を生かした教育活動の展開

- ④地域人材の学校経営への参画
- ⑤地域への学校施設の開放
- ⑥その他

24

Q21 iCSに関して、教育委員会に対する要望、又は悩みや課題等がある場合は  
ご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
年度当初の事業説明および熟議の方法周知 運営主体はCSにあることの周知など	年度初めにCS委員初任者向け研修の開催を予定しており、初任者だけでなく継続の方に向けても広く周知していく。また、各種研修でiCSの仕組みについて説明していく。
各CSが自校CSの課題解決のために行える研修会の 講師予算や視察予算の確保	コミュニティ・スクールや学校・地域連携に造詣が深い人材を派遣し、CS委員会の視察、アドバイスを行うアドバイザー派遣を実施している。毎年派遣校からは課題解決の糸口が見つかった、第三者にCS委員会を見てもらって良かったなどのお声をいただいているので、ぜひ活用していただきたい。
教職員全体にも、地域全体にも、iCSの目的や意義 が伝わりきれていないと感じる。だから熟議のテーマ に事欠いたり、人材が不足したり、教員の負担感に繋が っている。地域の力が教育業界に必要なのは確実な ので、もっと周知して欲しい。	教職員や保護者等地域に対するiCSの周知は課題の一つである。学校と地域が同じ目的を持って一体となり推進していくことに意味があるため、区としても周知に力を入れていきたい。

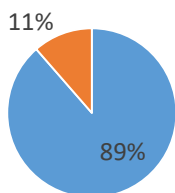
25

# 板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《CS委員回答用》 まとめ

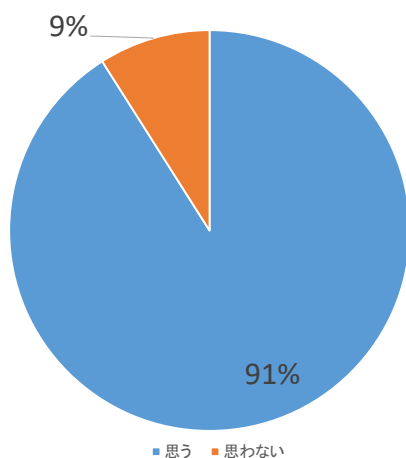
令和6年度

## Q1 会議の開催時間や開催時期・開催数は適切であったと思いますか。

令和5年度



令和6年度

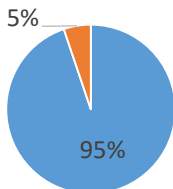


約91%の委員が会議の開催時期・開催数は適切であったと回答した。

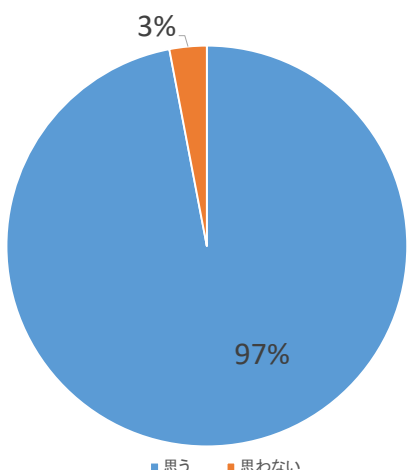
思わないとする回答の中には、平日の参加は仕事の関係上難しい、CS委員会が本来の役割を果たすためには、熟議の時間が足りないとする意見がみられた。

**Q2 熟議のテーマ設定は適切であったと思いますか。**

令和5年度



令和6年度



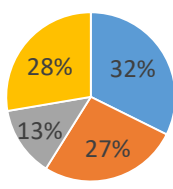
熟議のテーマが適切であったと思う委員は、約97%であった。

思わないとする回答の理由として、「1年間を通してテーマを決め、振り返りをした方が良い」「校長先生の話だけで終わってしまう回がある」との意見がみられた。

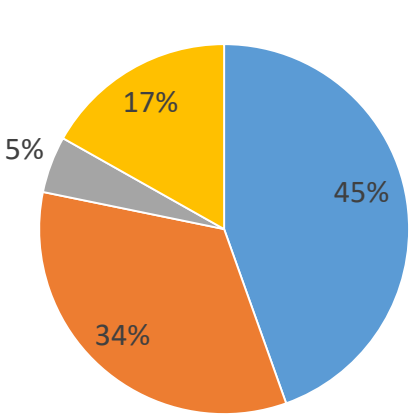
3

**Q3 CS委員会の開催方法として、書面開催及びWEB開催は必要だと思いますか。**

令和5年度



令和6年度



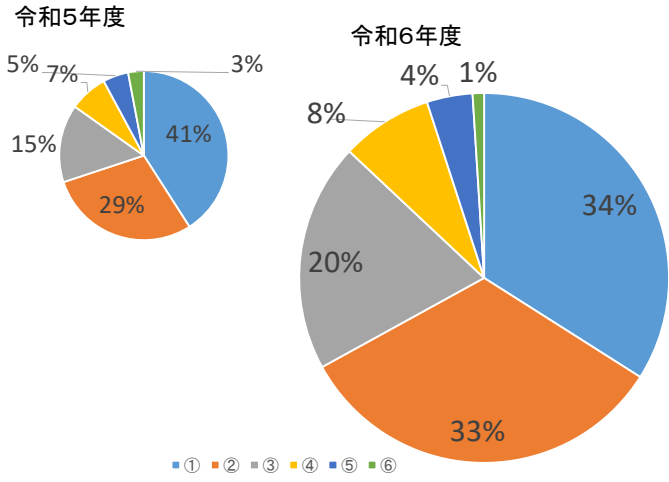
書面開催及びWEB開催が必要だと思う委員は、約84%であった。

書面開催やWEB会議を取り入れた方が出席率が上がるのではないかと意見がみられた。

■ 両方必要 ■ 書面開催は必要 ■ WEB開催は必要 ■ どちらも必要ではない

4

**Q4 地域とともにある学校を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。**

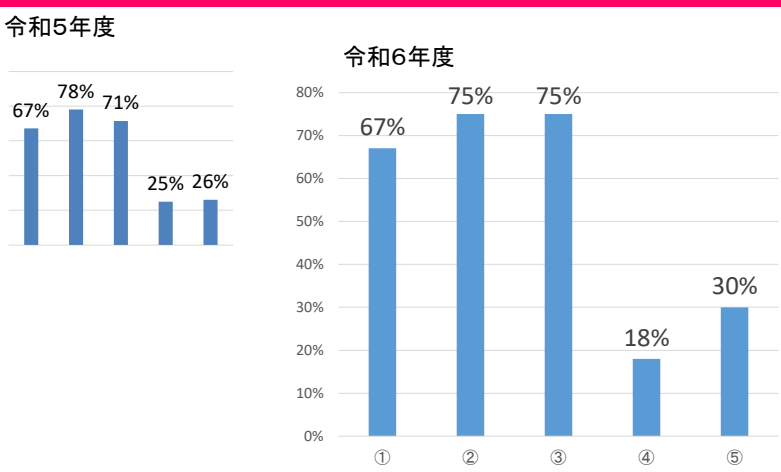


①及び②について、最も必要だとする回答が多かった。

意識の醸成や目標を共有できる熟議の在り方については当面の課題と考えられるが、③について、昨年度よりも約5%割合が高くなった。

- ①地域との連携・協働が不可欠とする学校・教職員の意識
- ②学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
- ③地域の特色を生かした教育活動の展開
- ④地域人材の学校経営への参画
- ⑤地域への学校施設開放
- ⑥その他

**Q5 学校の仕組みのうち、理解しているものを全て選択してください。**



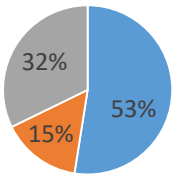
①～③については、多くの委員が理解していた。一方で④・⑤については、理解している委員は少数であった。

CS委員として、学校の仕組みについてよく理解する必要がある。

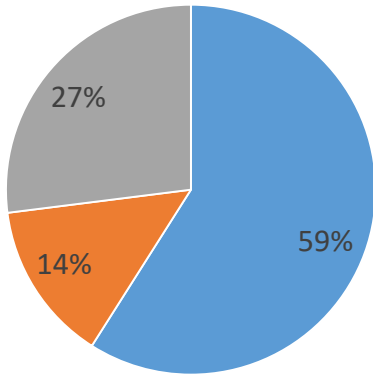
- ①教職員の勤務時間
- ②教職員の職層の仕組み(校長・副校長・主幹教諭など)
- ③学校で働いている教職員の種別(教員、事務職員など)
- ④教育課程の編成の仕組み
- ⑤教職員の異動の仕組み(異動対象者、任命権者など)

Q6 学校支援地域本部がどのような活動を行っているのか分かりますか。

令和5年度



令和6年度



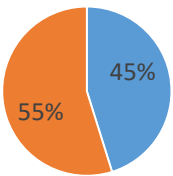
■ 分かる ■ 分からない ■ どの活動が該当するのか分からない

iCSの両輪である学校支援地域本部について、約59%の委員が分かったと回答し、昨年度より約6%増加しているが、委員の中には地域コーディネーターを含むため、実際の認知度はもう少し低いと推測される。

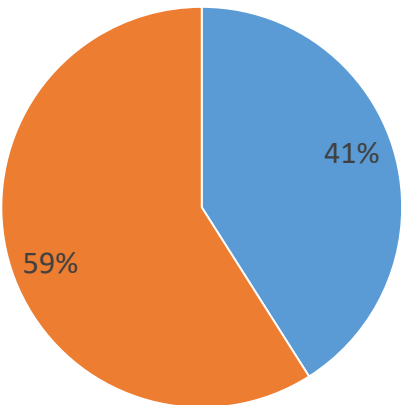
7

Q7 1年間CS委員として活動してみて、CS委員会について課題と感じていることはありますか。

令和5年度



令和6年度



■ ある ■ ない

約41%の委員がCS委員会に課題があると回答した。

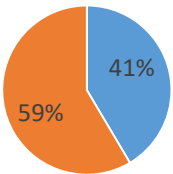
【主な意見】

- 熟議の時間が短すぎて十分な熟議ができていない
- もっと多様な世代・属性の委員を入れるべき
- 学校の活動が全て事後報告なので、意向や目的について話し合えると良い など

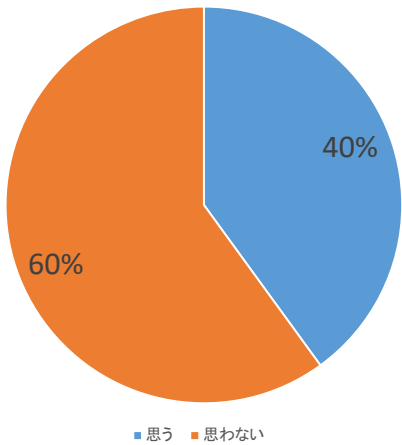
8

**Q8 委員の任期に更新限度を設定した方がいいと思いますか。**

令和5年度



令和6年度



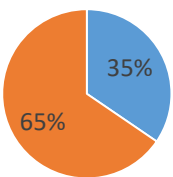
約40%の委員が、任期に更新限度を設定した方がいいと回答した。

2年～5年程度の回答が多く寄せられた。

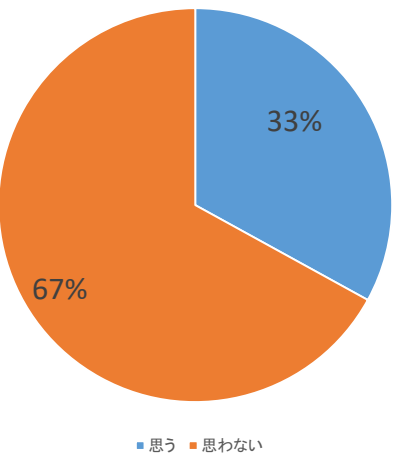
9

**Q9 委員長の任期についても定めた方がいいと思いますか。**

令和5年度



令和6年度



約33%の委員が、委員長の任期について定めた方がいいと回答した。

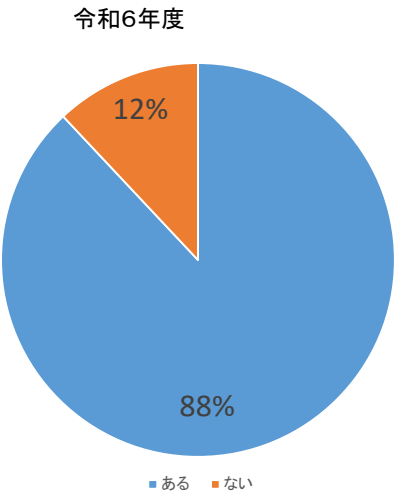
委員の任期と同じく、2年～5年程度との回答が多く寄せられた。

10

Q10 iCSに関する情報発信のため、「iCSレター」を年数回発行していますが、読んだことはありますか。

令和5年度

設問なし



約88%の委員が、読んだことがあると回答した。

CS委員会での机上配付やスマまちでの配信で読んでいる委員が多数だった。

内容については、iCSの仕組み・取組について、各CS委員会の好事例について参考になったという意見が多く寄せられた。

Q11 CS委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する要望・意見等がある場合にはご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
その場限りの熟議になってしまい、実際に実行に移すなど、次のステップに進めていない。	熟議のファシリテーター研修を毎年開催している。参加者からは普段の熟議がまとまるようになった、その場限りの話し合いで終わらず、実行に移すヒントを得ることができたなどの声があがった。委員の皆さまには、積極的な研修の参加をお願いしたい。
CS委員会の存在や位置付けが不明瞭なので適切な広報を定期的にお願したい。	iCSの仕組み・取組について保護者や地域住民等iCS関係者以外にも積極的に周知を行う。教職員との熟議の実施や、保護者にオブザーバーとして参加していただくこともCS委員会について知ってもらうきっかけになると考える。
CS委員会や学校支援地域本部の活動を保護者や地域の方に知ってもらえると、学校や委員も活動がしやすくなる。	

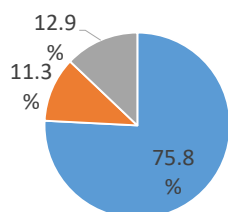
# 板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《地域コーディネーター回答用》 まとめ

令和6年度

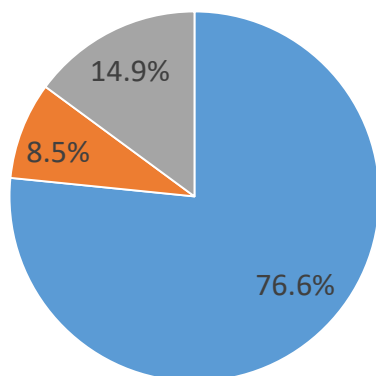
1

Q1 地域コーディネーターとしての活動の時間数は、総合的に見て適切だと思いますか。

令和5年度



令和6年度



■ 適切 ■ 多い ■ 少ない

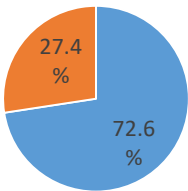
活動時間数が「適切である」とする地域コーディネーターは約76.6%であった。

「少ない」と答えた割合が増えたことから、学校のためにもっと活動がしたいと考える委員が多いことが推測される。

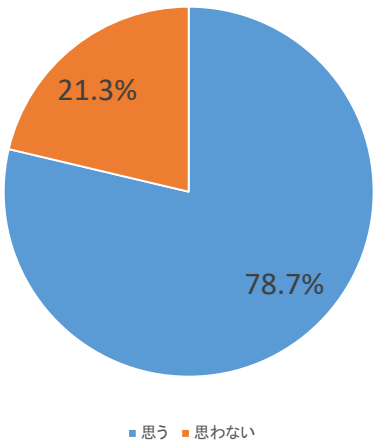
2

Q2 支援活動実施前に学校との打合わせは十分に行えていると思いますか。

令和5年度



令和6年度

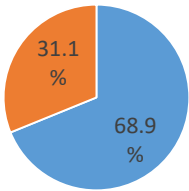


学校との打ち合わせが十分であると思う地域コーディネーターは、約78.7%と昨年度より約6%増加した。  
一方、学校が何を求めているか分からないと考えている地域コーディネーターも少なくないため、十分に打合せを行う必要がある。

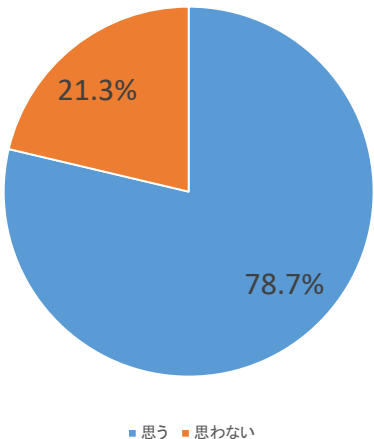
3

Q3 支援活動実施前にボランティアとの打合わせは十分に行えていると思いますか。

令和5年度



令和6年度

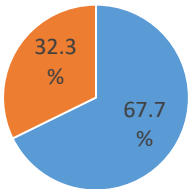


ボランティアとの打ち合わせが十分であるとする地域コーディネーターは、約78.7%と昨年度より約10%増加した。  
ボランティアの募集、連携について各校工夫をしながら活動している。

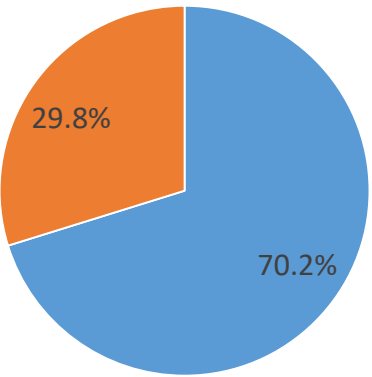
4

Q4 他の団体(おやじの会、PTA、寺子屋、町会、企業等)と連携ができていますか。

令和5年度



令和6年度



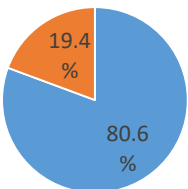
■ 思う ■ 思わない

他の団体と連携ができているとする地域コーディネーターは約70.2%おり、定期的に他の団体と情報交換を行っているとする回答が多い一方で、他団体がどのような活動をしているか分からないなどの意見もあった。

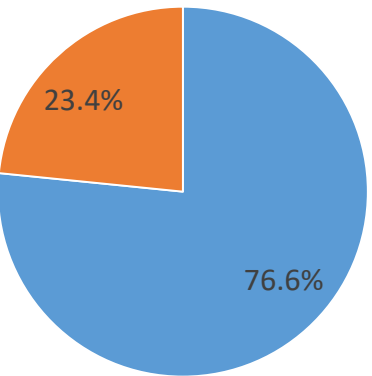
5

Q5 活動をするにあたって、課題と感じていることはありますか。

令和5年度



令和6年度



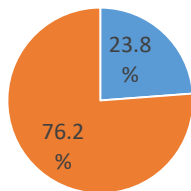
■ ある ■ ない

約76.6%の地域コーディネーターが課題を感じていると回答した。  
ボランティア等の人材発掘、学校とのコミュニケーション不足について課題を抱えている地域コーディネーターが多くみられた。

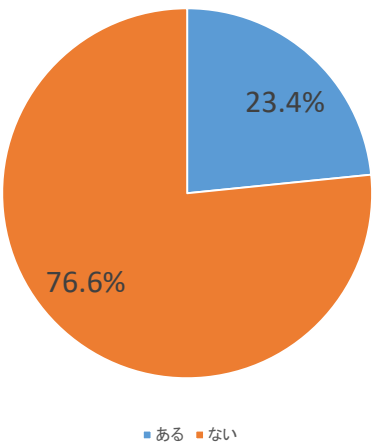
6

Q6 統括コーディネーターに個別に相談したいことはありますか。

令和5年度



令和6年度

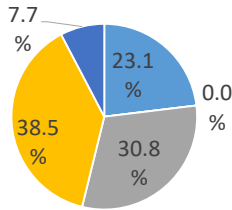


統括コーディネーターに相談したい地域コーディネーターは、約23.4%と昨年度とほぼ横ばいの結果であるが、設置当初に比べると統括コーディネーターの存在が認知されている。

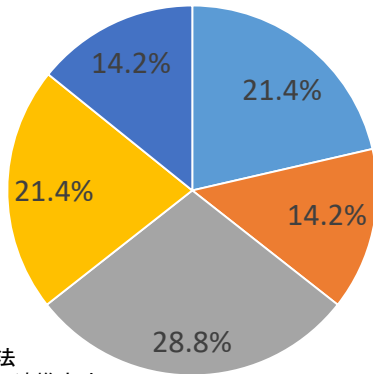
7

Q6-2 統括コーディネーターにどのような内容を相談したいですか。(複数回答可)

令和5年度



令和6年度



- ①新たな学校支援活動の開始方法
- ②他校の地域コーディネーターとの連携方法
- ③学校との連携方法
- ④次世代のコーディネーター育成方法
- ⑤その他

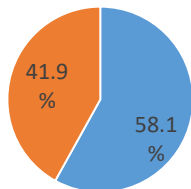
■① ■② ■③ ■④ ■⑤

問5の活動にあたっての課題としても挙げられていた、③「学校との連携方法」④「次世代のコーディネーターの育成方法」について相談したいとする回答が多くみられた。

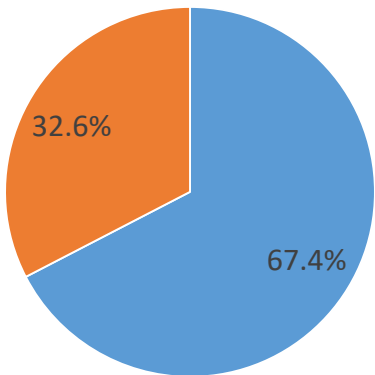
8

Q7 CS委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。

令和5年度



令和6年度



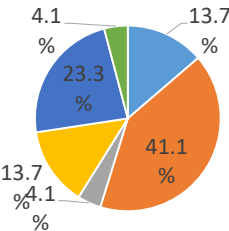
■ 思う ■ 思わない

約67.4%の地域コーディネーターが、CS委員会が学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると回答し、昨年度に比べると約9.3%増加した。

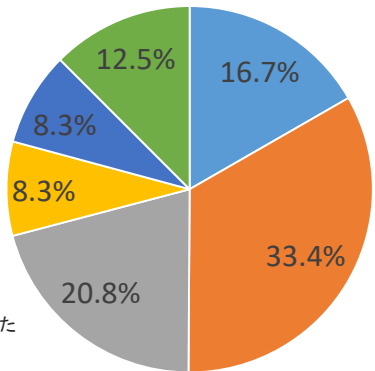
9

Q7-2 CS委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。上記の回答理由を選択してください。(複数回答可)

令和5年度



令和6年度



■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④ ■ ⑤ ■ ⑥

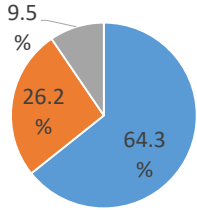
- ①学校支援地域本部の知名度が上がった
- ②学校のニーズがわかりやすくなった
- ③ボランティアが集めやすくなった
- ④CS委員会との連携方法がわからない
- ⑤今までとの違いがわからない
- ⑥その他

「学校のニーズがわかりやすくなった」や「ボランティアが集めやすくなった」とする回答が多く見られた。その他の意見の中には、「CS委員会での話が降りてこない」「CS委員会での熟議を受けて、学校支援地域本部の活動をしている」などの意見があった。

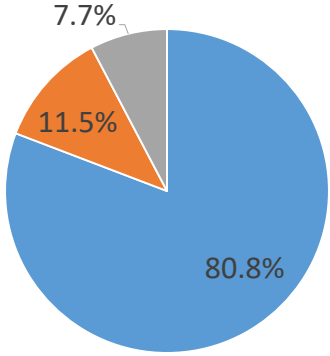
10

Q8 CS委員会で学校支援地域本部の活動について報告や相談をする機会がありますか。(CS委員に委嘱されている方のみ回答)

令和5年度



令和6年度



■ 機会があり、報告等は地域コーディネーターが行っている  
■ 機会があり、報告等は学校が行っている  
■ 機会がない

CS委員会において、学校支援地域本部の活動を報告している委員会は、約92.3%であった。昨年度と比較して地域コーディネーターが報告するCS委員会も増えている。

両輪・協働の関係として、多くの学校で活動報告を行っていることがわかる。

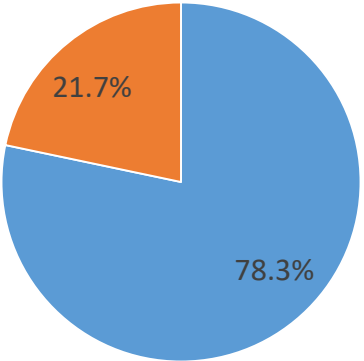
11

Q9 iCSに関する情報発信のため、「iCSレター」を年数回発行していますが、読んだことはありますか。

令和5年度

設問なし

令和6年度



■ ある ■ ない

約78.3%の委員が、読んだことがあると回答した。スマまちでの配信で読んでいる委員が多数だった。

内容については、iCSの仕組み・取組について、各CS委員会の好事例について参考になったという意見が多く寄せられた。

12

Q10 CS委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する  
要望・意見等がある場合はご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
CSの話が地域コーディネーターまで降りてこないため学校の様子が分かりづらい。	CS委員と地域コーディネーターを兼務している方が各校に1名はいる。CS委員会で話し合ったことを他のコーディネーターへ共有し、CS委員会で学校支援地域本部活動の報告は必ず行っていたきたい。
学校支援地域本部事業の予算が少ない、使いにくい。	予算については、より円滑に活動ができるような予算措置を検討していく。
CS委員会の活動についての事例をもっと広く周知してほしい。他校の活動事例が見えてこない。	CS委員会や学校支援地域本部の事例共有については、iCSレターや教育広報等を活用しているが、より一層の周知に努める。各種研修でも好事例の紹介を積極的に行っていく。